



大塚池公園
●1周約2.5kmの遊歩道があり散策やウォーキングを楽しむ人が多い。



大塚池の白鳥
●白鳥が飛来する冬は見物者とカメラマンで溢れかえる。例年は10月中旬から3月下旬ごろまで飛来する。

河和田八景

●水戸藩第9代藩主、徳川斉昭公が選定した水戸八景に倣い、天保年間(1842年ごろ)河和田の人たちによって河和田城址を中心に八つの優れた風景を選定されたと言われている。



膳棚帰漁



高間原秋月



吉田晴嵐



天徳寺晩鐘



報佛寺暮雪



道場池夜雨



西宿夕照



建面落雁

※看板は「廣面落雁」



Vol.70

駅からのふるさと紀行 JR常磐線

あかつか
赤塚駅

← うち はら み と →
内原 水戸

●次回は2月25日 ※イラストはイメージです。
「みどりの駅」を掲載予定です。



●2面3線のホームを持つ地上駅であるが、駅舎は橋上にある。改札口は一箇所で北口と南口を連絡する自由通路がある。



●北口は小さなデッキになっている。



●南口にある赤塚駅前公園。

● 散策コース ●

今回は2つのコースを紹介。体力と時間に余裕があれば、どちらも歩いてみよう。まずは大塚池公園を楽しむコース。北口から国道50号線に出て、笠間方面に歩いて行くと大塚池が見えてくる。池の周りは約2.5kmの遊歩道になっており、散策にはもってこい。冬には多くの白鳥が羽を休めているので、美しい姿に癒やされる。もう一つのコースは「河和田八景」巡り。水戸藩9代藩主・徳川斉昭公が定めた「水戸八景」に倣い、地域の人によって選ばれた名所。往事の面影が薄くなった場所もあるが、時の移り変わりに思いを馳せるのも趣がある。膳棚はかつて徳川光圀公も好んだ風景だった

と言われる。吉田晴嵐は岩間街道沿いにある吉田神社。かつては八幡社だったが、光圀公が大和武尊を合祀して吉田神社となった。河和田城跡には報佛寺と天徳寺がある。報佛寺は多くの木々に包まれた寺で雪景色はぜひ見てみたい。天徳寺は佐竹氏ゆかりの曹洞宗のお寺。鐘楼から夕暮れを告げる鐘の音は、当時の人々の生活に欠かせないものだった。河和田八景には案内板があるので、オリエンテーリング気分でも一興だ。

お土産は赤塚駅北口にある巴堂の「かきもち揚げ」がお薦め。職人の手で丁寧に手揚げした旨味とコクのある人気商品だ。



巴堂の「かきもち揚げ」

働く人と、世界を走る。

ISUZU

茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(代)
http://www.ibaraki-isuzu.co.jp

広告



古くは茨城線の発着駅 JR常磐線赤塚駅は明治27年の開業。平成11年度には南北を結ぶ自由通路が完成して橋上駅舎となり、駅前広場やロータリーも整備された。それに併せて、特に南口の開発が進み、周辺環境は大きく変わった。
大正15年から昭和46年までは茨城交通茨城線の発着駅として重要な役割を果たした。茨城線は赤塚駅から上水戸や茨城大学、飯富、石塚を通過して御前山(旧桂村)に至る全長約25キロの鉄道で、沿線住民にとって貴重な交通手段だった。また、かつて駅の南側には日清製粉や昭和産業の工場があり、穀物を輸送する列車のための専用線もあった。
駅の北側には白鳥が飛来する大塚池があり、南側は河和田城跡など歴史と文化が香る。駅を中心に地域が発展していく様子を眺めながら、自然や文化に触れる散策も楽しい。